

市長と住民の「こんだん会」

～臥雲市長にアタック！地域の元気な声を届けよう～

第一地区開催報告

1 開催日時・場所

令和5年8月21日（月）午後4時30分～6時30分
Mウイング 3-2会議室

2 テーマ

- (1) 商業の街～第一地区の取組みとパルコの閉店～
- (2) 伝統文化（松本城下町の舞台）の継承

3 参加人数

46名（市長、参加者10名、傍聴者22名、関係者13名）

4 参加団体

第一地区町会連合会
（松本商店街連盟、松本深志舞台保存会、本町商店街振興組合）
中町商店街振興組合

5 こんだん会内容

(1) 第一地区の現状について

【第一地区町会連合会会長 春日孝介さん】

マンション以外の住民が減っており、役員の成り手も少子高齢化で不足している。町会の力、活動する力がかなり落ちてしまっていると感じる。新たに組織を作って何かを始めることが非常に難しくなっているため、内容を吟味しながら方向付けを行っている。

(2) 商業の街～第一地区の取組みとパルコの閉店～

【本町2丁目町会長（松本市商店街連盟会長）山田善敬さん】

ア (株)パルコについて

イ パルコの功績

ウ 第一地区の取組み（アンケート調査）



パルコの功績

- 渋谷が松本にやってきた
- 県内唯一のパルコ
- 中心市街地のランドマーク
- 地域商店街との協調



パルコ7 de 美術館

(2) 第一地区の取組み

パルコ閉店に関するアンケート調査を実施

(令和5年6月27日～7月31日まで)

【調査項目】

所属町会、年齢層

- ①パルコ閉店に対する思い
- ②パルコ閉店による自身の生活や営業への影響
- ③パルコ閉店による街への影響
- ④地域や地域住民の対策や支援
- ⑤閉店後の跡地利用
- ⑥影響軽減のために行政や関係者に期待すること

エ 今後の取組みについて

アンケート調査により、様々な声を得られた。今後は、地区として実現可能な何を求めていくかをポイントにして、意見をまとめて行く必要がある。2年後の閉店が迫っており、時間がないことから、初期段階からコーディネータを中心に行政や商工会議所、地域を交えた話し合いの場を市長へ求める。



【中町商店街振興組合理事長 花岡由梨さん】

パルコの閉店により、人の流れ、客層の変化を懸念している。駅からお城に向かう観光客の通り道にもなっているので、松本市の顔として、また第一地区にとって大事な場所であることを市は認識してほしい。



【伊勢町2丁目町会長 桑井健至さん】

伊勢町商店街振興組合解散の経緯について

伊勢町1、2丁目の2つの町会で振興組合を作っていた。会員数は80名ほどいたが、役職につける人が2～3人しかおらず、資金は集まってもマンパワーがないという現状であった。ほとんどがテナント業となっており、商店街活動に無関心な会員が多くなってしまった。活動もマンネリ化したため、一旦解散をして見直すこととなった。解散は後退ではなく新しいことを生み出すための一歩と考えている。

【神明町町会長 田中 修さん】

町の商店の店主達は、パルコの閉店により人通りが少なくなってしまうのではないかと、とても不安に思っている。これまで駅前商店街は、パルコが核になっていて、周りの商店が追随するような形で盛り上がっていた。今回、パルコが閉店を再来年の2月と刻限を切ってくれたので、検討期間をいただきありがたい。この間に、次の核となる施設を、できるだけタイムラグが出ないよう検討してほしい。

臥雲市長

土地、建物の9割以上をパルコが所有している。40年間、地方都市としては最後まで店を残してくれていた。松本市に対する眼差しも、決して冷たいものではないと感じている。パルコの方針の決定がない限り、我々にできることも限られている。大きな方向性をどこまで共有できるのか、パルコと公式・非公式にパイプをつないでいるというのが現状。

松本市の中心市街地にとって基軸となるアルピコ交通のバスターミナルビル、JR東日本の駅ビル、松本市役所が老朽化等に伴い、建て替えを検討している。この3つが同時並行的

的にきている。建物やエリアのあり方の変わり目が、この2023年からの数年間だと思う。

公共施設の有効活用というような公民連携で街づくりや土地利用ということができるならば、そうしたことを模索したい。

今後、パルコ側と方向性が共有できたら、ご意見にもあったコーディネータ、あるいはアドバイザー、大きな同時並行的に進むものに対して市役所や商工会議所、町会等と合意形成や具体的なフェーズを描くところに



進んでいくことになるのではないか。できるだけ速やかに、行政の責務としてパルコ側と合意形成を図りたいと考えている。

伊勢町商店街の解散は、後退ではなく新しい出発の起爆剤になればというお話であった。伊勢町だけではなく、新伊勢町にしても第一地区のかなりの商店街や町会も1回リセットするくらいにならないと、担い手も、次の展開も見えてこないであろうと思う。

中町は、今の人通りにつながる電線地中化等の取組みを進めてきた。小さな新しい取組みの積み重ねとして、今の繁栄があると思う。駅前大通りからあがたの森に向かう両側の個店も、少しずつではあるが、古い建物を利用しながらの新しい商いの目というものが、積み重ねられている。

パルコの閉店後については、従来のサイズとはいかないまでも、パルコによって照らされてきた松本の良さのようなものが引き継いで、今回の変わり目を機に地域が考え、今後を託せるようにつなげていきたいと考えている。

【本町2丁目町会長（松本市商店街連盟会長） 山田善敬さん】

今回、様々な意見が寄せられたが、多くは市の関与を物凄く望んでいる。市で取得するとか、市が関連するものを共有するということまで持っていきたいという期待が皆さんあるので、ぜひそこを汲んでほしい。

【本町3丁目町会長（本町商店街振興組合理事長） 太田隆治さん】

パルコの閉店というのは想像の中にはあったが、実際に1年半後の閉店の期日を切られたときには、我々の企業を含め、駅前をどう運用していくのか、これまで考えなくてもよかった問題が出てきた。50年程前、横浜元町の再開発を行った当時の市長、飛鳥田（あすかた）さんは、行政が入り込んだ革新的な動きで、民間に沿った仕事をした。臥雲市長には、今、同じことが目の前で起きている。民間の所に手を突っ込むというのはとても難しい話ではあるが、割り切って、駅前、お城口、神明町をはじめ、大きな形でのまちづくりを重点的に動いてほしい。民間の力というのは、かなり強い。大手の不動産等が松本に出てきたときに、一番彼らが気にするのは行政・松本市であるので、民間に寄り添う形で手を携えていただければ幸いである。東京の大手企業、官庁は松本市役所の動きを注視しており、実際、松本市内に視察にも来ている。今後、松本市役所に接触があった際には、我々、民間の意向をよく踏まえて、松本市民の考えを伝えてほしい。

臥雲市長

飛鳥田（あすかた）さんの横浜市長時代のお話であったが、今、同じことができるかという、必ずしも同じではないかもしれないが、公民連携の話の中で、お金の面でも考え方の面でも協調関係に立つからこそ、全国の中で、松本に大きな投資をしよう。それはしっかり市民の利益に豊かさにつながるということに、常に中心を置いていなければいけない。お話いただいたことは、しっかりと肝に銘じて取り組んでいきたい。

(3) 伝統文化（松本城下町の舞台）の継承

【中町1丁目町会長（松本深志舞台保存会副会長） 羽山義輝さん】

ア 松本深志舞台について

現在のような舞台形式が完成したのは江戸時代の中頃

イ 松本深志舞台保存会について

平成7年10月、南深志16舞台町会により結成

平成13年「松本城下町の舞台」として松本市重要有形文化財に指定
後に北深志の2舞台も加わり、18舞台となった。

ウ 天神まつり、神道祭での舞台

天神まつり（深志神社 7月）16舞台が参加

神道祭（四柱神社10月）18舞台が参加

エ 舞台と舞台行事の課題について

（ア） 担い手の不足

（イ） 舞台庫の老朽化、耐震不足

深志神社周辺に長屋の形状のものが2棟

軽量ブロック積みの建物で、築65年経過

改修工事では耐震性は得られず、新築の費用、建替え時の保管場所等が課題となっている。

舞台と舞台行事の課題

- 担い手不足
- 舞台庫の耐震強度不足

→ 舞台庫は昭和34年頃建設されたもの
築65年を経過

耐震補強の改修工事では十分な耐震性は
得られない

長屋の舞台庫

2棟 10台と4台





【本町1丁目町会長 上條誠二さん】

舞台に関する問題は大きく2つある。1つは曳き手と乗り手の人手不足。乗り手は、舞台に乗って、太鼓を叩いてくれる小学生。もうひとつは、保管場所の問題。舞台庫が長屋方式の建物になっているということを含めて考えると、各町会で対応できる話ではなくなっている。これについては、市の重要有形民俗文化財としての保管場所という観点で、考えていかなければいけない問題であると思っている。

舞台は2つの祭りに対して、行事の中の一環として、各町会が責任をもって運営しているが、舞台の曳き回し等の人手不足の問題については、基本的には各町会、舞台保存会、あるいは地域で、もう少し乗り手を含めた範囲を広げていく、一般から募集するなど、そういった工夫が必要だと思っている。

保管庫に関しては、一日を争うような話ではないが、建て直しは絶対に必要だという現状を考えたときに、観光資源としての有効活用というものを、もっと具体的に考えていかなければいけない。これまで山雅の祝賀パレードや松本歌舞伎、松本駅のイベントに舞台を曳きだすなど協力をしてきた。そういうものも含めて、観光資源としての活用。その中で、舞台庫の保存も考えていく。そういう流れが必要だと思っている。今回のアンケートの中にも、常設展示を求める声が結構あった。常設展示場と舞台庫の保管場所というものを合わせて考えていくことが、必要なのではないかとと思っている。

パルコの跡地に舞台の常設展示場を作れば、松本駅から舞台常設展示、博物館、松本城、開智小学校という流れ。あるいは、舞台展示場から中町、イオンモールという流れ。あるいは、舞台展示場から、昔の電車通りを通過して、美術館、あがたの森まで。このような形で周回していく大きなコースの拠点として、十分な機能が期待できるのではないかとと思っているので、そういった観点で、市の有形文化財管理者としての働きをぜひお願いしたい。

【伊勢町1丁目町会長 井垣守健さん】

多々問題が上がっている中で、担い手不足を解消するための考えとして、以前、四柱神社の大名町に舞台を展示した際、市長が子供を舞台に乗せてあげたいと言っていると聞いた。我々も数多くの子供を乗せてあげたいが、今は舞台を所有する町会の子供が乗るだけで、それ以外の子供は乗っていない。乗せていない。こういった地域だけで限定するのではなく、舞台を所有する町会と、集合住宅ができている地域の町会の子供たちと交流を図る。今は人が足りないが、子供を受け入れることによって、ご家族の皆さんが舞台曳き等に参加してもらえる。これを進めていけば、人員不足といったことも解消できるのではないか。

青山様（神輿）も、街の中の町会は持っているが、子供がいないので使われていない。ただ保管されているだけ。近年は、青山様・ぼんぼんをいくつかの町会が合同でやっているが、さらに拡大すれば、松本の中の観光に活用できるのではないか。

資料にもお囃子スクールとあるが、舞台にただ乗るだけでは意味がないので、お囃子スクールにも参加してもらおう。夏休みに深志舞台保存会が毎年進めているが、これも近年、子供が減っているため、参加人員が少なくなっている。ぜひそういったものに参加してもらい、舞台の曳き手の方には家族が参加して運営をしてもらえればと思う。

舞台庫の問題が本町1丁目の町会長からもあったが、1箇所を集めるといえるのは無意味ではないか。可能であれば何箇所かに点在して、人が周遊、回遊するというのを、一番重要に考えていく必要がある。パルコがなくなり、イオンに集中すると、街の中が偏る。いろいろなバランスが崩れる。バランスを補強するためにも、こういったものを活用する必要があると思っている。

臥雲市長

2つの問題について話をしていただいた。舞台の曳き手と舞台を保管する場所と建物。別々の問題ととらえられたいこともないが、私はつながっていかないと、この課題は解決できないと思う。

18もの台数を保存、保管する舞台庫を予算化する、税金を使うということを議会と市民の皆さんに共感して、理解していたかなければならない。決して簡単ではないと思う。ですので、担い手がいなくて、地元の子供たちしか参加できないという状況を打破する。裾野を広げ、大勢の人たちが舞台の価値や意味を理解し、共感を広げることが、舞台庫の問題を前に進めることになる。

舞台庫については、時間的な猶予がないほど老朽化が進んでいるということではあるので、あらためて、立地や建物の費用の概算のようなものを、

我々としても調査研究することが、必要なタイミングに至っていると思う。

それよりも先行する形で、もっと舞台の価値をプレスして、活用を進めるために、伊勢町1丁目の町会長さんからご指摘があったように、街なかと郊外をもっともっとなつなげて、街なかが持っていないものを郊外に。郊外が持っていないものは、街なかが持っている。双方がつながることでウィンウィンになる。舞台が抱えている問題は、それにより光が見える可能性が高いのではないかと感じる。

これは、それぞれの町会が抱えている町会の存続にもつながると思う。松本の35地区というのは非常に多様で、第一地区のような本当の街なかの中の街なかなところと、梓川のような人口が1万5千人以上で子供たちも一定数いるような地区が、もっと相互交流できないか。人口増加ゾーンで言いうと、芳川地区など南側の若い世代が増え、子供も増えている地域の人たちと、この街なか、もっともっとなつながらないか。その入り口として、お祭りを楽しんでもらうということが大きな突破口になる。そんな可能性を感じる。青山様・ぼんぼんも今年からいくつかの地区や町会単位で復活させようという、中央地区の取り組みも少し報道されたが、もう少し大がかりに舞台をそうした有効な活用の方向に進めていくと、松本市で言えば住民自治局や観光部やそうしたところと町会や保存会の皆さんとつながってスタートができないかなと思う。

それと舞台庫をどうするかという調査研究も重要なものにとらえていく。この両輪が動き始めてその調和点が、舞台庫の公費負担による建替えというところに話が進んでいけばと思う。あらためて18台の舞台が揃うから価値があるのか。あるいはひとつひとつでも、他の町や類似のこの舞台に凌駕するようなものか、その点をあらためてうかがいたい。

【本町1丁目町会長 上條誠二さん】

個人的な意見で言えば、お祭りのときに境内にずらっとならぶ。その荘厳さみたいなものが、非常に打たれる。そういう現状を考えたときに、個別よりも、まとまっているところを見ることができの方が、より観光資源としての効果は高いであろうと、私は考えている。18台出なければいけないということではないが、これが松本の舞台なのだと思えば、ある程度台数が固まっている方がいいのではないかと考えている。

臥雲市長

さきほど申し上げた車の両輪を動かし始めるということよりも先に、常設展示というようなことまで視野に入れられるのかどうか。やはり文化財保存とは言っても、マネタイズの問題とは無縁では、いずれも可能性がない。

価値、地域の共感と、土地や建物を大がかりなものにするというところにたどり着くのか。関与、参加する方々の裾野を、街なかを超えた形で天神まつりや神道祭のところから始めたい。そしてそのことと、舞台庫の問題の調査研究を費用を含め、進めていくことが大事かなと思う。

【伊勢町1丁目町会長 井垣守健さん】

舞台庫の改修の問題については、今、いろいろな形でクラウドファンディングが活用されている。舞台庫の整備をするのにどのくらいの金額がかかるか、2億くらいかかるかもしれないが、当事者と市と2者だけで資金を集めきれぬのか。クラウドファンディングを利用して、いろいろな方に存続するうえでの価値を感じてもらい、お金を出してもらおう。今、外国の方もたくさん見えていて、彼らはお金を出すのは全然やぶさかではない。価値が見いだされて徹底されていくと、そういった資金があつまるのではないか。

【博労町町会長 杉山正久さん】

先ほどから具体的な提案が出ているが、市長はこういった文化財を観光資源として考えているのか、考えを伺いたい。方向性や具体的な話が進んでいくと考えるので。

臥雲市長

考えている。文化観光部という部署を一昨年作ったが、その根底には文化を観光に産業に要は稼ぐ力、マネタイズということに意識を持っている。その文化財は何でもそこにつなげていけるかということには限界がある。それぞれの価値の高い低いというものと、無縁ではないと思っている。松本城と18台の舞台を、全く同列に論じることはできないであろうと思う。この松本城に対して、我々は向き合い、国費も市費もクラウドファンディングという手法も念頭において、スケールは小さくても向き合っていかななくてはいけないという意識は持っている。

6 フリートーク

【傍聴者（宮村1丁目 武田さん）】

私の町内も舞台庫をもっている。私が役員をやっているときに、メディアガーデンと新たにオープンする博物館に舞台の展示場を作ってほしいというお願いをしたが、両方とも断られた経過があるということも、市長は頭に入れておいてほしい。もう1点、マンション条例というものを作ってほしい。これは、高さ制限は地域によってあるが、マンションを建てても町会に入らないという問題が出ている。人口は増えても役員の成り手がいない。強制は

できないが、市長にはそういうこともぜひ考えてほしい。

臥雲市長

舞台については、1～2台であれば検討に上ったかと思うが、18台を一同にということになると、当時はハードルが高かったのであろうと想像する。博物館の外構については私が就任した時点ではすでに動かせないという状況であったので、検討の俎上にもなかった。18台は揃ってこそと考えるのか。そうではなく、交代でというような形であれば、新しい博物館のエントランスの前というようなところに一定期間1台ずつ展示するというようなことは方法としてはあり得るのかなと思うので、あらためて皆さんとご相談できればと思う。



マンションの話は、おっしゃるように住民が町会に加入しないとか、町会の費用を負担することも嫌がるという問題は、向き合っていかなければいけない問題と思っている。そのことを一方的に半強制的なアプローチをすれば、問題はいい方向にトータルとしていくのかということについては、考えなければいけないことがあると思う。これからは、松本から大都市に移り住んだまたは、大都市で暮らしている若い世代に、松本を選んで住んでもらうということを、これまで以上に積極的にやっていかなければいけない。そして、そういう人たちが求める自由さや一方的な負担というのが、どういう形なら彼らが受け入れるかということも、この町会の問題であるので、ぜひ皆さんと一緒に話し合っていきたい。条例である程度の義務付けをすることで、トータルとしてうまくいくのかということ、皆さまとマンションのまち中では核となる問題であると思うので手法については話し合っていきたい。

【傍聴者（宮村1丁目 武田さん）】

舞台庫のことは、メディアガーデンには2台くらいを入れ替えでお願いしたが、叶わなかった。それだけ、報告しておきます。

【中町1丁目町会長（松本深志舞台保存会副会長） 羽山義輝さん】

舞台保存会としては、全舞台を展示会館に入れて欲しいとはとても言えない。費用の問題もあるので、無理だと思っている。たとえ1台でもいいので、交代で入れれば全舞台がそこに展示できる。結局全部の町会が入れるということになるので、まず現実的に可能なことを考えていかななくてはならない。その方が観光客も都度、色々なものを見ることができていいのではないかな。

臥雲市長

博物館の10月7日のオープニング以降、土日のイベントとして様々な松本市内のイベントを展開していくことが、ひとつの取り組みの柱である。

お話いただいたやり方であれば、可能なのではないかと。

7 こんだん会のふりかえり（臥雲市長）

本日お集まりいただいた皆さんから、現状と課題、そして将来に向かって何を考えていくのかという、ご意見をお話しいただいた。私としても、今の街なかの抱えている問題を、松本市全体の中での位置づけをしっかりと上げて、これは35地区の1地区の問題にはとどまらないという大きな観点から、今日の中心市街地のパルコの問題であり、舞台を中心とした伝統文化の継承ということに取り組んでいかなければならないと、あらためて確認した。そして、今日も多くの傍聴の方にお集まりをいただいたが、あらためてこの第一地区、松本の中心街の街のあり方が、ちょうど変わり目、曲がり角に来ている。ピンチでもあるがチャンスでもある。だから今、しっかりと議論をして事を起こそうということを感じている方々が多いと認識をした。今日、いただいたご意見。私から述べさせていただいた発言。これをあらためて確認させていただいて、しっかりと取り組んで参りたいと思う。今日はありがとうございました。

